

博士学位論文審査報告書

Summary of Doctoral Thesis and Report of Examination

研究科長 殿

下記のとおり、審査結果を報告します。

To the Dean:

We report the result of Examination for the Doctoral Thesis below.

学籍番号 Student I.D. No.: 4009S315 - 3学生氏名 Name: Pramila Neupane和文題名 Title in Japanese: 性別・カースト・民族の観点から見た教育と就学に対する阻害要因—ネパールの農村における中等教育の事例英文題名 Title in English: Barriers to Education and School Attainment across Gender, Caste and Ethnicity: A Case of Secondary Schools in Rural Nepal

記

1. 口述試験参加教員 Faculty Members Involved in Oral Examination

①審査委員会主査 Chief Referee of the Screening Committee

氏名 Name: Kazuo Kuroda 印所属 Affiliated Institution: GSAPS, Waseda University資格 Status: Professor博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution
Ph.D. Cornell University

②副査（審査委員1）Deputy Advisor (Member of Screening Committee 1)

氏名 Name: Gracia Liu-Farrer 印所属 Affiliated Institution: GSAPS, Waseda University資格 Status: Associate Professor博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution
Ph.D. University of Chicago

③審査委員2 Member of Screening Committee 2

氏名 Name: Michio Yamaoka 印所属 Affiliated Institution: GSAPS, Waseda University資格 Status: Professor博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution
Ph.D. Waseda University

④審査委員3 Member of Screening Committee 3

氏名 Name: Miki Sugimura 印所属 Affiliated Institution: Sophia University資格 Status: Associate Professor博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution
Ph.D. University of Tokyo2. 開催日時 Date / Time: (Y)2012/(M) 5 /(D) 14 (Time) 17:30-19:00[時限 / Period] 1st: 9:00-10:30, 2nd: 10:40-12:10, 3rd: 13:00-14:30, 4th: 14:45-16:15, 5th: 16:30-18:00, 6th: 18:15-19:45, 7th: 20:00-21:303. 会場 Venue: 3144. 合否判定 Result: 合/Passed・否/Failed（該当する方に○ Circle as appropriate）

5. 添付資料 Attached document(s)

1 枚 pages (和文4,000字程度、もしくは英文1,500語程度。ただし、論文題目のみは、和文・英文を併記すること)
(Approximately 4,000 characters in Japanese, or 1,500 words in English. The Doctoral Thesis title, however, must be written in both Japanese and English.)

博士論文審査委員会報告書

提出者： Pramila NEUPANE

題目： Barriers to Education and School Attainment across Gender, Caste and Ethnicity:
A Case of Secondary Schools in Rural Nepal

論文名和訳： 性別・カースト・民族の観点から見た教育と就学に対する阻害要因－ネパールの農村における中等教育の事例

1. 概要

本研究は、ネパール農村部における中等教育の就学・学習到達度にジェンダー、カースト、民族等の要素がどのように影響を与えているかについて、質問紙調査及びそれらの学生の学業成績データを基とした数量分析と、これらの地区の教師、保護者、学校運営委員会メンバー、学校管理者、地区教育行政官に対する詳細なインタビュー調査、各学校学級の参与観察の質的分析を混合させた手法によって明らかにしようとしたものである。中心となる研究課題は、ネパール農村部の高校生は、ジェンダー、カースト、民族等の異なった背景・属性によって、どのように異なった就学・学習阻害要因を感じているか、また、なぜ、異なった属性・背景の学生は、就学・学習阻害要因について、そのように異なった（または共通した）感じ方をするのか、学習達成度において、ジェンダー、カースト、民族とその組み合わせは、どのような影響を有しているか、である。これらの研究課題に対して、量的・質的分析から、すべてのグループで、女子の方が男子よりも、あらゆる種類の就学・学習阻害要因をより強く感じていること、ダリットやジャナジャティ等の低いカーストの学生の方が高いカーストの学生より、就学・学習阻害要因を強く感じていること、そしてそれが学習達成度にも大きく影響していることが明らかになった。

2. 本論文の構成

CHAPTER 1 INTRODUCTION

1.1 General background

1.2 Definition of key terms

1.3 Objectives of the study

1.4 Research questions

1.5 Hypotheses

1.6 Rational and significance

1.7 Structure of the thesis

CHAPTER 2 REVIEW OF LITERATURE AND CONCEPTUAL FRAMEWORK

2.1 Education as a major determinat of personal well being as well as societal

growth

- 2.2 Ethnic diversity and its implications
- 2.3 Gender inequality and barriers to education: global context
- 2.4 Caste, ethnic and gender barriers to education in Nepal
- 2.5 Consequences of barriers
- 2.6 Major gaps in the literature
- 2.7 Conceptual framework of the study

CHAPTER 3 GENERAL OVERVIEW OF NEPAL AND RESEARCH BACKGROUND

- 3.1 A brief history of Nepal
- 3.2 Social structure, religion and culture
- 3.3 Politics and government structures of Nepal
- 3.4 Geography/geology of Nepal
- 3.5 Education in Nepal

CHAPTER 4 RESEARCH METHODOLOGY

- 4.1 Overview of the employed methodological theories
- 4.2 Research site
- 4.3 Research questions
- 4.4 Hypotheses
- 4.5 Research design
- 4.6 Methodological conclusion

CHAPTER 5 DATA ANALYSIS AND RESULTS

- 5.1 Introduction
- 5.2 Data collection
- 5.3 Basic information of questionnaire respondents
- 5.4 Different barriers to education
- 5.5 Test score of final exam of the respondents
- 5.6 Results of regression analysis
- 5.7 Subjective dimension of specific barriers to specific group of students

CHAPTER 6 SUMMARY AND CONCLUSION

- 6.1 Summary of findings
- 6.2 Discussion of the findings
- 6.3 Implications
- 6.4 Contributions
- 6.5 Limitations
- 6.6 Suggestions for further research

3. 内容

本研究は、ネパール農村部における中等教育の就学・学習到達度にジェンダー、カースト、民族等の要素がどのように影響を与えているかについて、量的分析と質的分析を混合させた手法によって明らかにしようとしたものである。具体的には、4つの地区の6つの高校の学生407名に対する質問紙調査及びそれらの学生の学業成績データを基とした数量分析を行い、学生の属性の学業成績や学習状況に与える影響を明らかにした。また、これらの地区の教師、保護者、学校運営委員会メンバー、学校管理者、地区教育行政官の計47名に対して詳細なインタビュー調査を行い、各学校学級の参与観察の質的分析結果と合わせ、数量分析の結果に関する具体的かつ総体的な説明を試みた。

これらの分析は特に以下のような研究課題に答えるべく、行われた。

1. ネパール農村部の高校生は、ジェンダー、カースト、民族等の異なった背景・属性によって、どのように異なった就学・学習阻害要因を感じているか。
2. なぜ、異なった属性・背景の学生は、就学・学習阻害要因について、そのように異なった（または共通した）感じ方をするのか。
3. 特にカーストの最も低いダリットやジャナジャティの女子学生はどのような就学・学習阻害要因を感じているか。
4. 異なった属性・背景の学生は、学習達成度（成績）においても、特徴があるのか。あるとすれば、何が原因か。
5. 高いカーストの女子学生と、低いカーストもしくは少数民族の女子学生では、就学・学習阻害要因や性差別において違いはあるか。
6. ネパール農村部における高校生の学習達成度において、ジェンダー、カースト、民族とその組み合わせは、どのような影響を有しているか。

これらの研究課題に対して、上記の量的・質的分析から、以下のような結果が導き出された。

1. すべてのグループで、女子の方が男子よりも、あらゆる種類の就学・学習阻害要因をより強く感じている。
2. ダリットやジャナジャティ等の低いカーストの学生の方が高いカーストの学生より、就学・学習阻害要因を強く感じている。
3. ダリットの女子学生にとって、経済的な阻害要因は最も強く感じられている。
4. ブラーマンのような高いカーストの女子学生の方が、ジェンダーから来る社会文化的阻害要因を強く感じており、それが学習達成度のジェンダー格差につながっている。つまり、高いカーストの方が、学習達成度（成績）における男女間格差が大きい。
5. 学生が感じる就学・学習阻害の状況は、学校での学習達成度に直結しており、男子学生よりも、女子学生の成績が低く、カーストの高い学生よりも、カーストの低い学生の方が、成績が低い。

また、これらの量的分析の結果に関し、質的研究（インタビューや参与観察）によって、具体的、総体的、複合的な分析を行った。

4. 評価

本研究において最も評価されるべきは、ジェンダーとカースト・民族という複合的な分析視角をもって研究がデザインされたことであろう。先行研究は単一の属性の教育に対する影響を対象とする傾向があったが、複合的な分析をすることによって、様々な発見が得られた。

第二に、量的手法と質的手法の組み合わせが、複眼的・重層的な分析を可能とし、研究結果にも説得力を与えている。特に、全体の傾向性を見るためには数量分析が、「なぜ」の部分の説明するためには質的分析がそれぞれの特性を發揮しており、興味深い。

第三に、量的分析の重要な部分をなす教育生産関数分析において、カースト・民族を加えたことは、ネパールにおける同分析手法による研究としては、妥当なものであり、成功している。

第四に、長期にわたるフィールドワークにより、量的にも、質的にも、相当のデータを収集しており、その努力と説得力は評価できる。

しかし、審査委員会においては、以下のような課題も指摘された。

- (1) 本研究はネパールにおける4つの村におけるデータを分析したものであるが、他のネパール農村部における研究結果の一般化には一定の留保をしなければならない。
- (2) 教育生産関数にカースト・民族の状況を入れることを、他の国でいかにして応用できるかについての議論が必要である。
- (3) 教育生産関数には、個人の特性だけではなく、学校の特性を入れた階層的な分析を今後は目指すべきである。
- (4) ブルデュエ的な観点で、教育の再生産機能についても、今後は分析・議論を試みるべきであろう。
- (5) ネパールでは近年大きな政治的変容があったが、その影響に対する説明が足りない。
- (6) 分析単位が学生のみであるが、今後は教師のジェンダー・民族・カーストの観点から、特に教師の待遇や社会的地位等にも配慮しながら、研究を発展させるべきであろう。

5. 結論

上記のような課題は指摘されたが、全体として、ジェンダー・民族・カーストの学生の就学・学習状況に対する影響に関して、複合的な研究枠組みを提唱し、努力してデータ収集をし、実証分析を行った点は高く評価できるものである。よって、論文審査委員会は、

この論文を総合的に判断し、早稲田大学博士(学術)に相応しい論文であると認め、学位授与を提案するものである。